



2012. 10. 15 発行

本号の内容は以下のとおりです。

I. 第70回運営委員会報告	1
II. 国際看護研究会第15回総会報告	1
III. 国際看護研究会第15回学術集会報告	2
IV. 第15回学術集会会長基調講演抄録	2
V. 第66回国際看護研究会《講演会》のお知らせ	4
VI. 国際看護研究会第6回スタディツアーについて	4
VII. 皆様へのお願い・お知らせ（事務局より）	5

※本文に記載されている振込先やメールアドレスについては、現在は使われておりませんのでご注意ください。

I. 運営委員会報告

国際看護研究会第70回運営委員会は9月14日（金）に持ち回り会議形式で開催された。9月15日に開催される国際看護研究会第15回総会の資料について協議し、一部修正し承認された。

II. 国際看護研究会第15回総会報告

国際看護研究会第15回総会は2012年9月15日（土）にJICA横浜で第15回学術集会に併せて開催された。提出された資料に基づいて以下の項目について説明され、原案通り承認された。

1. 2011年度事業報告
2. 2011年度収支報告
3. 2012年度事業計画
4. 2013年度事業案
5. 2012年度予算
6. 国際看護研究会第6回スタディツアー案
7. 国際看護研究会第16回学術集会（第70回国際看護研究会）

日時：2013年9月14日（土）

場所；JICA横浜（予定）

会長：神戸市看護大学 成瀬 和子 氏

テーマ：途上国における看護人材育成（仮）

8. その他

会員より 2013 年 2 月に予定されている運営委員選の選挙管理委員の立候補を募ってはどうかと提案があった。

Ⅲ. 第 15 回学術集会報告

第 15 回学術集会大会長 伊藤尚子（日本赤十字看護大学）

2012 年 9 月 15 日（土）に第 15 回学術集会を JICA 横浜国際センターにて開催し、120 余名の方がご参加くださいました。足を運んでくださった皆さま方には心よりお礼申し上げます。また、約 1 年間にわたり支えてくださいました準備／実行委員、学生ボランティア、および国際看護研究会運営委員会の皆さま、本当にありがとうございました。これまで 14 年間会場としていた JICA 地球ひろばの閉鎖に伴い、新たな会場での開催となりましたが、JICA 横浜の後援もあって無事終えることができ安堵しております。また、学術集会の運営のため多くの方々よりご寄付をいただきましたこと、感謝いたしております。

2 会場で口演・ポスターによる発表がありました。また、シンポジウムでは「異文化で体験する災害」をテーマに、それぞれのご専門・お立場から 3 人の先生方に貴重なお話をさせていただきました。いずれにおいても活発な討議が行われ、大変嬉しく思っております。

このたびの学術集会が、今後の皆さまの国内外における国際看護活動にご活用いただければ幸いです。

Ⅳ. 第 15 回学術集会 基調講演抄録「在日外国人と災害」

第 15 回学術集会大会長 伊藤尚子（日本赤十字看護大学）

開催日：2012 年 9 月 15 日 会場：JICA 横浜国際センター

世界における災害の発生数は増加の一途をたどっています。アジアでの自然災害発生率はおおよそ 38% ですが、被災者数は 88% を占めています。日本は気象的にも地形・地質的にも災害に対して脆弱な国土条件の下に置かれているばかりでなく、都市化社会の進展がさらに災害の発生を増幅させています。平成元年以降、気象庁が顕著な災害として命名した自然災害は、豪雨・豪雪 9 件、地震 14 件、火山噴火 2 件となっています。ことに平成 7 年にマグニチュード 7.2 を記録した、阪神・淡路大震災は 6,434 名の死亡者を出しその被害の大きさから、記憶に留められるとともに、多くの教訓を得ることになりました。高齢者・母子・傷病傷害等の要援護世帯が多く被災していることから、改めて災害弱者への支援のあり方を見直す契機にもなりました。特に外国人の死亡率と負傷率がそれぞれ 0.27%、2.12% と、日本人の 0.15%、0.89% に比して高かったことは、内閣府も後に教訓情報として特記したことです。

内閣府は災害弱者の定義を、「自分の身に危険が差し迫った時、それを察知する能力がない、または困難な者。自分の身に危険が差し迫った時、それを察知しても適切な行動をとることができない、または困難な者。危険を知らせる情報を受け取ることができない、または困難な者。危険を知らせる情報を受け取ることができても、それに対して適切な行動をとることができない、または困難な者」とし、具体的に「障害者、傷病者、高齢者、乳幼児・子供、外国人、妊婦、旅行者」を挙げています。平成 22 年末の日本における外国人登録者数は 2,134,151 人、不法残留者数は 78,488 人となっており、その合計数は日本の総人口の 1.78%を占めています。また、外国人の入国者数は 703,103 人となっています。日本に滞在する外国人は、異なる文化・習慣・言語を経験して生活をしており、人によっては母国で経験しなかったような災害に遭遇することもあります。このような背景から災害時には要援護者（弱者）となると考えられます。

阪神・淡路大震災で被災した在日外国人の特徴や行動、行われた支援を把握するために、新聞記事からそれらに関する記事を抽出し分析を行いました。その結果、「老朽化したアパートなどに居住しており、住宅の倒壊による被害にあいやすい。日本語が十分でなく、情報難民となりやすい。独自の文化・宗教的背景を持ち、異文化ストレスを生じやすい。超過滞在者が存在し、種々の支援を受けにくい。保険への加入が少なく、医療機関の利用や治療費の支払いが困難になる」などの特徴が明らかになりました。

平成 19 年 7 月 16 日、平成 20 年 6 月 14 日に発生した新潟県中越沖地震、岩手・宮城内陸地震では、在日外国人への質問紙調査を行ったところ、阪神・淡路大震災同様の回答が得られたものもありますが、困難さとしての経験項目数は少ない結果が出ました。対象地域は阪神・淡路大震災に比して、大きなビルなどがなく、人口密度も低いため、マグニチュードに比して被害は阪神淡路大震災よりも大きくはなかったと思われれます。また在住外国人が阪神地域では労働者である割合が多いのに対し、対象地域では国際結婚による日本人配偶者として地域で生活している印象がありました。生活を共にする者が家族であり、日本人家庭の一員として生活し地域に溶け込んでいるのが調査における外国人の特徴でもありました。

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、日本がこれまでに経験をしたことのないような複合的かつ広範囲にわたる災害でした。宮城県国際交流協会が震災 5 ヶ月後に実施した、在日外国人のための「東日本大震災を振り返る会」の記録に残された発言から、内容分析により外国人ゆえの経験を抽出しました。外国人の出国数は震災直後の 1 週間は約 24 万 4 千人となっており、1 週間前に比較して 10 万 4 千人多く日本から出国していました。多くの大使館が帰国への勧告や支援を行いました。そのような状況下で帰国するか日本に留まるかの選択において葛藤をしていたことがわかりました。さらに上記の 3 つの震災と同様の困難さの経験もしていました。しかしながら、日本にとどまった外国人は避難行動・生活をする中で日本人をよく観察しており、その忍耐強さや秩序だった行動、助け合う姿に感心していたことがわかりました。日本人に対するこうした印象は、今後復興再建をしていく過程で協働していくにあたりプラスに働くことが期待されます。

阪神・淡路大震災以降、防災・減災のための対策は発展を遂げてきており、外国人支援の内容も整備されつつあります。外国人への情報伝達は多言語化され、行政上のサポートも外国人登録

者以外に罹災証明を発行したり、震災特例旅券の発給がなされたりしました。上述の宮城県国際交流協会が催した外国人対象の母国語による「震災を語る会」は、被災外国人の心のケアとなりました。しかしながら、様々な組織・機関から提供される情報が日本人向けの内容を翻訳しただけのものであったり、内容にばらつきがあったりしていることが分かりました。また、せっかく多言語された情報に行きつくまでの情報源が日本語だけであったりとまだまだ改善の余地はあるように思います。さらに支援する組織・機関間のネットワークが十分とはいえない状況にあります。ホスト国として他国から訪れる外国人の生命と生活を守るために、医療と地域社会・行政を結び付け、日本人と変わらないだけの防災・減災力を身につけられるような支援活動をするのも国際看護の役割であると考えています。

平成23年3月11日に発災した東日本大震災において被災された日本人・外国人とご家族の方々に心よりお見舞い申し上げ、1日も早い復興の下、心身の健康と共に安寧の生活が戻ることをお祈りいたします。

V. 第66回国際看護研究会〈講演会〉のお知らせ

日時：2012年12月15日（土）13：00～15：00（12：45より受付開始）

会場：「国際協力機構研究所（JICA 市ヶ谷研究所）601-602号室（東京都新宿区市谷本村町10-5）

講師：JICA 専門家 山田智恵里氏

講演テーマ：「JICA 技術協力 南アフリカ HIV/AIDS 在宅コミュニティにかかるモニタリング 評価強化の活動中間報告」

参加費：本研究会会員 無料・非会員 500円

*「地球ひろば」より会場を移転し、初の講演会です。事前申し込みは不要ですので、どうぞお気軽にご参加ください。2013年3月講演会は3月16日（土）を予定しております。

講演会の自薦・他薦は問いません。講演をご担当いただけます方、講演内容のご希望などがありましたら、どうぞお気軽にお寄せ下さい。

VI. 国際看護研究会第6回タイスタディツアーについて

3年に1回開催しているスタディツアーについて、今年度はタイを行き先として計画しています。ご関心のある方は森まで御連絡ください。myoshie@gunma-u.ac.jp 最大9人まで募集し、先着順で締切ります。概略は以下の通りです。

2013年3月24日（日）10:45 成田発→15:45 バンコク着

18:25 バンコク発→19:25 コンケン着

3月25日（月）～29日（金）

ハンセン病セルフケアクリニック見学（22年間活動する日本人阿部春代看護師活動場所）

ハンセン病コロニー内の訪問看護同行、コミュニティ見学

県立病院見学

タイの医療についての講義を聴講

*コンケンの見学については、次の web をご参照ください。

<http://jnapcdc.com/archives/5383>

バンコク病院見学 (Medical tourism で有名な病院)

現地 NGO 訪問

その他学校見学、世界遺産見学など

3月29日(金)

22:35 バンコク発→

3月30日(土)

6:15 成田着

経費概算：

航空券+現地交通費 ￥100,000~120,000

宿泊費(5泊) ￥30,000

食費 ￥10,000

合計￥140,000~160,000

留意点：治安状況その他諸事情により、計画の実施および内容変更の可能性あり。

学生の参加希望者は保護者の同意書を必要とする。

参加者は海外旅行保険をかけること。

Ⅶ. 皆様へのお願い・お知らせ (事務局より)

1. 2010年度、2011年度、2012年度の会費をまだ納めていない方は至急お振込をお願い致します。本研究会は会員の皆様からお振込頂く年会費(2千円)により運営されています。納入年度は封筒の宛名の右下に会員番号とともに記載されています。事務整理の都合上、振込用紙に会員番号もご記入をお願いします。また、今年度は運営委員選挙があります。12月末までに会費納入者に選挙権・非選挙権があります。未納の方は至急納入をお願いします。

郵便振込先：00150-6-121478 国際看護研究会

2. 国内外に転居された方もいらっしゃるかと思います。国際看護研究会では経費節減のため、NEWSLETTERの送付にはメール便を利用しておりますが、最近転居先不明で戻ってくる場合が多くなっています。転居された方は研究会事務局に新住所をご連絡下さい(下記研究会メール宛て)。海外にもNEWSLETTERをお送りしています。

3. NEWSLETTERの「海外情報」に掲載する記事を募集しております。会員の皆様の活動報告、活

動国の様子，医療事情，あるいは旅行記など海外に関する情報をお待ちしております。研究会 HP より研究会メールへお申し出ください。

4. 会員の皆様からのご意見を反映して研究会の活動の更なる改善を図りたいと思います。NEWSLETTER について、講演会をお願いしたい内容のご希望や、講師の自薦・他薦，本研究会へのご意見などをお聞かせ下さい（下記研究会メール宛て）。

5. 第 15 回学術集会抄録の残部があります。ご希望の方はその旨明記の上，抄録代として 500 円，郵送代として 80 円の合計 580 円分の切手（80 円までの小額切手でお願いします）と返送先を書いた A4 サイズ用の返信用封筒を事務局までお送りください。

※個人名で書かれた原稿内容は研究会の意見を反映するものではありません。また、ニューズレターの記事に関して無断転載を禁じます。皆様のご理解をお願いいたします。